

東京都立水元小合学園 通信

令和6年2月16日（通算110号）

東京都立水元小合学園 校長 米谷 一雄

SNS

随時更新中



今年度の研究活動について

校長 米谷 一雄

先週は、降雪により交通機関や道路状況の影響から通学時に混乱が生じました。情報を集めながら、対策を講じてはいますが、さらに、想定の範囲を広げる必要があることを痛感しました。

さて、今年度も残すところ一か月となりました。3月に入ると、第一体育館は卒業式仕様になり、両部門で卒業式に向けた準備が始まります。高等部の卒業生にとっては、残り少ない学校生活を充実して過ごし、学校を巣立って欲しいです。

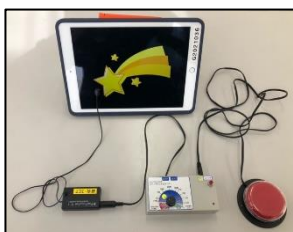
【研究活動について】

今年度は、研究テーマを「ICT機器（一人1台端末含む）を効果的に活用した授業実践」として、両部門で実践及び研究を進めてきました。2月2日（金）に、校内で研究のまとめを行い、取組状況や成果と課題について、全校で共有しました。ここで、内容について一部紹介します。

就業技術科は、各職業に関する専門コースを対象としました。ビルメンテナンスコースを例に挙げると、一人1台端末を活用して、汚れている場所を画像に撮り、検索機能も使いながら、チームで清掃の方法を考え、全体で共有する活動を取り入れていました。また、オフィスサービスコースでは、身だしなみチェック表を表計算ソフトで作成し、データを数値化して自己分析することで、自分の傾向を理解することにつながりました。



就業技術科
一人1台端末の活用



肢体不自由教育部門
様々なスイッチ教材の活用

肢体不自由教育部門は、各学習グループ単位で授業改善を行いました。自立活動を主とする教育課程を例に挙げると、小低のグループでは、「KOMA KOMA（コマコマ）」というアプリを活用し、作品の制作過程を撮影した画像をコマ送りの動画として作成し、その動画を観賞することで、活動の見通しや順番待ちでの期待につながりました。また、中学部では、一人1台端末と様々なスイッチ教材を活用した合奏を実施しました。「ピアノあそび」や「DropTap（ドロップタップ）」というアプリを使用して演奏し、一人一人に応じた形で合奏に参加していました。

ICT機器の活用については、今後、さらに進化していくことが予測されます。ICT機器は使用することを目的とするのではなく、効果的に使用することにより、児童・生徒にとってわかりやすく、主体的に授業に参加できることが大切になります。また、これまでの教材とも組み合わせることで、学びの幅が広がることも期待できます。学校評価アンケートに、ICTの活用について【わからない】や【あまり思わない】といった回答が一定数ありました。授業改善と併せて、情報発信の仕方を工夫して参ります。

今年度、講師をお願いした一般社団法人 SOZO. Perspective の海老沢穰先生からは、授業で使えるアプリや活用の事例を紹介いただき、みんなで使ってみることを中心とした実践的な研修となりました。先生方も楽しく研修に参加している様子があり、学ぶ楽しさに触れた一年でした。これを、児童・生徒に還元できるようにしていきたいと思えます。

※ ICT教育の「ICT」は、Information and Communication Technology の頭文字をとった言葉で日本語の意味は「情報通信技術」です。ICT教育とは、パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育の方法です。

肢体不自由教育部門

高等部3年生より

教諭 積田 怜

高等部3年生は卒業までわずかとなり、現在はまとめの学習や活動に精力的に取り組んでいます。今年度は感染症の影響も少なくなり、念願の修学旅行に行くことができました。以前より、行きたかった占いに行ったり、レストランでおいしいご飯を食べたり、水族館でイルカショーを見たり、たくさんの笑顔を見られて本当に良かったです。学習発表会では、3年生が休み時間などに自主的に台詞のタイミングや動きを打ち合わせするなど、積極的に練習していました。舞台上で高等部を引っ張っていく姿は、とても頼もしかったです。他にも部活動、社会見学などの行事でもたくさんの思い出を作ることができました。来年度に迫った10周年行事に向けて、実行委員としてたくさんのアイデアを出し、会議や準備などたくさんの仕事をこなしました。

また、進路については保護者の方々、関係者の方々の多大なる御尽力のおかげで全員の進路先が決定いたしました。進路先での活躍が目に見え、非常に感慨深い思い出です。残りの日々で楽しい思い出をさらに積み上げていきたいと思っています。



就業技術科

3つの「しんか」を意識する

学科主幹 大友 昭彦

さて、児童・生徒の皆さんはこの題を読んで何のこと？と思ったことでしょう。

ここで伝えたい「しんか」とは「進化」「深化」「真価」の3つです。それぞれの意味を調べてみると…。

- 1 「進化」とは進歩し発展すること。
- 2 「深化」とは物事の程度が深くなること。また、それを深めること。
- 3 「真価」とは本当の値うち。物や人のもつ真の価値や能力とあります。

同じ「しんか」でもそれぞれ意味の違いがあります。そして、何を隠そうこの3つの「しんか」は水元小合学園における令和5年度の大事なテーマでした。この「しんか」をキーワードに1年を振り返ってみます。

今年度も水元小合学園は着実に「進化」しました。待ちに待ったグラウンドの完成や地域の方が参加し、両部門合同で宿泊した宿泊防災訓練。また、東京理科大への清掃及び連携授業等、日々、様々なことで「進化」を遂げたと感じています。また、ICT機器を使用した学習に関しては一層「進化」を遂げたと感じています。そして、教職員、児童・生徒はそれぞれが目標に向かって、One Day One Plus+（1日、学校に来ると1つ、学びがある）の言葉どおり日々学びを深めることができました。これからも自分の歩幅で学びを「深化」させていくことが大切だと感じています。

そして、令和6年度、水元小合学園はいよいよ開校10周年を迎えます。まさに開校してから10年間の「真価」が問われる1年になると感じています。この記念すべき1年を児童・生徒、教職員が一つになってさらなる「しんか」を遂げていきましょう。

令和5年度の学習も残すところわずかとなりました。改めて自分自身の「しんか」について振り返るとともに、新年度はこの言葉をさらに意識して皆さん一人一人のさらなる成長を願っています。